



CQM(超短期経済予測モデル)

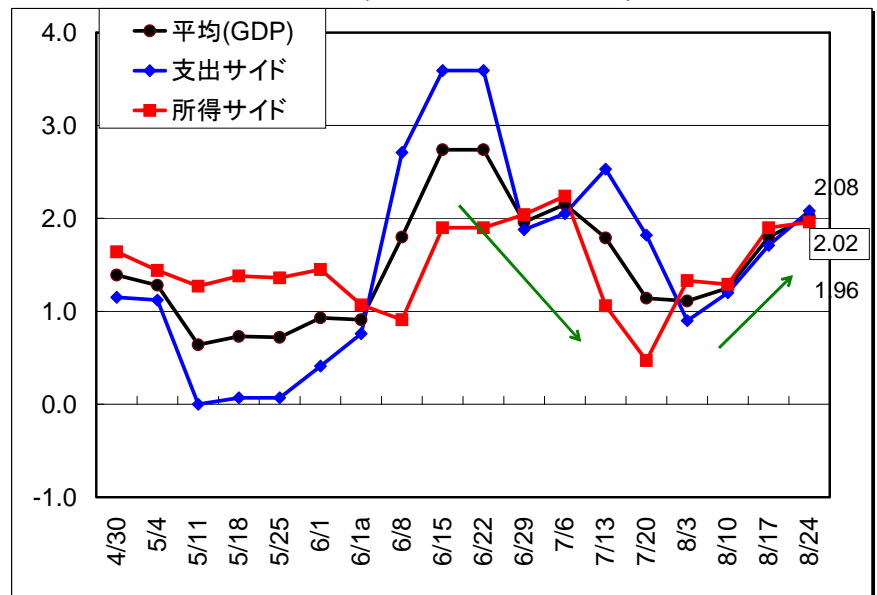
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2012年8月24日)

ポイント

▶今週の CQM は今期の実質 GDP 伸び率を支出、所得サイドからそれぞれ 2.08%、1.96%へと上方に修正した。景気回復への上昇トレンドが形成されている(グラフ)。
▶インフレ率に関しては、ヘッドラインインフレ率、そのコアインフレ率をそれぞれ 0.2%、1.4%と予測している。
▶8月22日に発表された FOMC (7/31-8/1)ミーティングの議事録において、更なる金融緩和策導入の可能性が非常に高くなったことが示唆されている。
▶しかし、CQM 予測はその FOMC ミーティングの後、景気が回復のモーメントを形成し始め、実質機器・ソフトウェア投資、住宅投資が共に 10%を超える伸び率となったことを示している。それ故、更なる金融緩和策の導入は不要と判断できる。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q3 (%、前期比年率換算)



<FOMC (7/31 - 8/1)ミーティング後に改善し始めた米景気>

8月24日のCQM予測は7月の住宅着工件数と耐久財出荷を更新した。その結果、今週のCQMは2012年第3四半期の実質GDP伸び率を支出サイドでは1.71%から2.08%へ、所得サイドでは1.90%から1.96%へそれぞれ上方修正した。両サイドからの平均実質GDP伸び率は1.80%から2.02%へ上方に修正された。

8月22日にFOMC(7/31-8/1)ミーティングの議事録が公表された。この中で、更なる金融緩和策の導入の可能性が非常に高くなったことが示唆されている。その根拠になるのが、景気の減速であり、実質個人消費支出の伸び悩み、投資のほどほどの伸び率である。しかし、グラフに見るようにCQM予測は米景気が8月の始めまで減速してきたことを示しているが、8月3日以降のCQM予測は景気が回復の上昇トレンドを形成してきたことを示している。今週のCQMでは今期の実質GDP伸び率は2%にまで達している。同様に、実質最終需要の伸び率も8月3日以降上昇トレンドを形成し始め、今週のCQMでは3%~4%と予測されている。

CQMが8月14,15日にそれぞれ発表された7月の小売販売、消費者物価指数を更新した結果、今期の実質個人消費支出の伸び率は1.4%から2.4%へと上方に修正された。更に、今週の耐久財出荷の更新により実質機器・ソフトウェアの今期の伸び率も5.7%から10.3%へと上方に修正された。7月の住宅着工件数の更新後、実質住宅投資の伸び率は12.5%と予測されている。このようなCQM予測からみれば、更なる金融緩和策の導入を必要としないことが理解できる。

しかし、8月24日のロイター紙によれば、バーナンキ連銀議長は議会下院の監視・政府改革委員会あての書簡の中で、更なる金融緩和の可能性が高まっていることを伝えている。彼がこの書簡をいつ書いたのかは不明であるが、FOMCミーティングのあとの景気の転換により、更なる金融緩和策の環境がかなり変化してきたと考えられる。それ故、8月31日のバーナンキ連銀議長のJackson Holeでの講演が注目される。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550